

第9回双葉町放射線量等検証委員会 議事要旨

日 時：令和3年9月3日（金） 13：22～14：38

場 所：双葉町産業交流センター 大会議室

1 開会（略）

2 議事

(1) 双葉町における除染前後の線量等について

(2) 中間報告書（案）について

- 資料2に基づき、環境省から説明。
- 資料3に基づき、事務局から説明。

（主な意見）

- 資料2の4～8ページのようなヒストグラムに示されているデータはわかりやすく、除染前後の状態が変化しているがわかるのでいいと思う。しかし、資料2の9ページや資料3の参考資料1のように平均値だけのグラフだと自然減衰のファクターも含めた平均になってしまうため、データの解釈に難しさが残ってしまう。
- 3.8 μ Sv/hを超えるような地域は、そんなにたくさんあるようには見えない。しかし、数は少ないけど3.8 μ Sv/hを超えるところがある。その考察が必要である。
- 最終的に住民の方に見ていただくものであることから、ヒストグラムがわかりやすい。3.8 μ Sv/hを超えたものは何地点中何地点でした、そこはどのようなところでしたという文章や箇条書きにすることで、安心感を与えられるような解説があるとよりいい。
- 3.8 μ Sv/hを越えているのはどのぐらいあるかというのが、一番気になる場所。3.8 μ Sv/hを越えているのがいくつあるかというのは、説明しないとけない。
- ホットスポットを全て潰すことはできないという可能性もあるので、今度は実際に帰ってきた人に、個人線量計(Dシャトル)を付けてもらい、個人被ばく量をモニターすることになると思う。
- メッシュマップで、高い地点については、大きく拡大して理由をちゃんと掘り下げておいてもらうといい。
- 地形図に空間線量率のマップを重ねることによって、地形図が分かりづらくなっている。住民からするとどの地点が高いのかをきになると思うので、図を工夫する必要がある。

- 統計上まとめていくときには、中央値を使用することが多い。また、中央値を取ることで、よりよく状況を示しているデータになる。しかし、中央値は馴染みがないので、その部分は考えたほうが良い。
 - 資料3の参考資料2は、時系列になっているからある程度すぐに把握できる。
 - 無人ヘリのデータ等には考察を入れるべきである。
 - 居住するという意味では、無人ヘリくらい平均したデータが良い気がする。補足する形で考察を入れるべきである。
 - 何もかも全部大丈夫ですというのは、案外説得力がないと思う。
 - 走行サーベイは住民が道路を歩くことから必要なデータである。
 - 山際が高い原因や、生活する上では、あまり影響がそれほどないという説明が必要である。
 - 資料3の本文に「準備宿泊に伴う放射線被ばくの心配はない」とあるが、心配をするかどうかは住民の考えであるから、「放射線被ばくのリスクは十分に低い」と記載したほうがよい。
 - リスクコミュニケーションで車座や座談会等で2人でも3人でも集まってもらい、いろいろ話をするということは、ぜひやったほうがいい。
 - 個人被ばく線量も準備宿泊すればDシャトルで数値が出ることから、その意味を説明するとかもやるべきであり、最初が肝心です。
- 3 その他（略）
- 4 閉会（略）